



www.fao.org

危機

主な動き

2008年、FAOは114の国と地域で755件の緊急支援活動を行いました。

複雑化する危機、紛争、自然災害によって、毎年何百万人もの人々が住まいを追われています。2007年の国連の記録では、世界中で1,600万人の難民、2,600万人の国内避難民がいます。

深刻な食料不安を引き起こす最大の原因は紛争です。

サハラ以南アフリカ地域は繰り返し食料危機に見舞われており、影響を受けている国のおよそ3分の2では内戦が起きています。

紛争経験国の4割は、その後再び紛争に陥り、アフリカではその率が6割に上っています。

毎年、2億人以上の人々が自然災害に見舞われています。2008年にはイエメン、インド、バングラデシュで洪水が、パキスタンと中国で地震が、ミャンマーでサイクロンが、カリブ地域でハリケーンが発生しています。

鳥インフルエンザなどのフードチェーンに対する脅威は、深刻な危機を招くおそれがあります。2007年6月から2008年7月には、30カ国で鳥インフルエンザが発生しました。

保護、復興、強化：危機発生時のFAOの役割

危機の要因には、ハリケーン、洪水、地震といった自然災害によるものと、内戦や戦争といった人為的なものがあります。危機的な状況で最も被害を受けやすいのが開発途上国の農民です。農村地域の大半が、生活や食料の確保を農業や関連産業に依存しているため、FAOが有する農業、畜産、漁業、林業に関する専門知識は、緊急支援活動や復興への取り組みに欠かせないものとなっています。

緊急支援活動の内容

外部から特別な支援を必要とする危機が発生すると、FAOは各国政府、他の国連機関、人道支援団体など多くのパートナーと協力して支援活動を行います。FAOは、国連各機関の緊急支援活動を取りまとめ、調整する国連人道問題調整事務所と緊密な関係を築いています。

支援活動の最初のステップはニーズの把握です。たとえば、早急に必要な食料支援を判断するため、国連世界食糧計画（WFP）と合同で現地調査ミッションを派遣します。調査では、FAOが食料生産活動や生活を取り戻すために現地に何が必要かを見極めます。

次に復興計画を策定し、そのための資金を集めます。

農業に根ざした生活を守り、立て直すための介入活動において、非政府組織（NGO）はパートナーとして特に重要な役割を担っています。FAOが調達した種子、農機具、肥料などの必要な資材を被災農民に配布する際に、NGOが活躍することも少なくありません。FAOは、たとえば救援物資がその地域の気候や作付時期に合うよう、助言もします。

FAOの緊急支援活動の大きな目的は、被災農村地域の状況がこれ以上悪化しないようにすることです。FAOは農業生産の再開、被災地域の生存戦略の強化、食料援助依存の一刻も早い軽減に向けて、迅速に対応します。

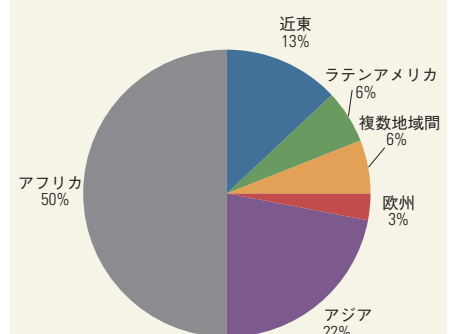
FAOは開発に関する使命があり、組織としても、危機直後の復興から長期的な開発援助までを一体的に行う能力があります。そのため、FAOの緊急支援活動も、農村が高い技能を身につけ、農地を改良できるよう支援していくことが目的です。



津波災害で被災したスリランカの農民。FAOの種子と肥料を受け取る権利があることを記したカードを見せています。

©FAO/Prakash Singh

承認を受けた緊急支援プロジェクト（地域別、2008年）



出所：FAO

危機発生前、発生中、発生後のFAOの対応

FAOは食料・農業危機への対応で何十年にもわたる実績があります。豊富な技術知識を持ち、90カ国以上で事務所を構えています。こうしたことからFAOは次のような事項に対して指導力を発揮し、適切なタイミングで援助を行います。

防止、備え、早期警戒

FAOは「世界食料農業情報早期警報システム」(GIEWS)で今後起こりうる危機を明らかにするほか、被災地域の食料・生活保障に対する災害の影響を最小限に抑えるために、防災・危機管理プログラム実施し、被災国を支援します。

ニーズの把握と対応

FAOは緊急のニーズの把握、食料安全保障

の状況の監視、復旧計画の策定を行うほか、復興プログラムを実施します。

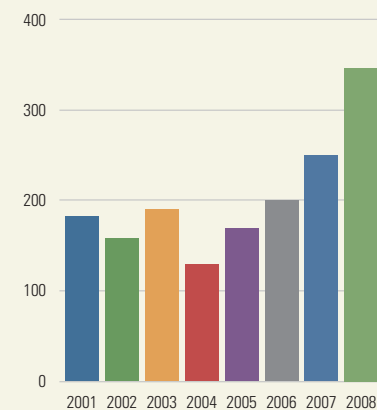
調整と技術援助

農業分野の国連のトップ機関として、FAOはNGO、市民社会組織、他の国連機関など、すべての開発パートナーが手がける農業支援活動に技術的助言を行うほか、活動を調整し、支援の効果を最大限に高めます。

救援活動と復興・開発活動の連携

FAOは豊富な技術知識と開発経験を生かし、危機に見舞われた国やその国民が、短期的な救援から長期的な復興へとうまく移行できるようにします。

FAO緊急支援プログラムの実施数の伸び
(百万米ドル)



出所: FAO

長期化する危機への特別な対応

危機が長期化している場合、FAOの支援は緊急的なものにとどまらず、被災地域が本来持つ回復力を生かすものでなければならないと考えます。こうした姿勢はより効果の高い、長期的な回復につながります。

多様性の強化: さまざまな穀物を育て、家畜も飼育している農村は、災害に強い柔軟性を持っていることが少なくありません。たとえば、干ばつの起きやすいスーダン西部では伝統的に穀物のほかに家畜も育てているため、穀物が不作の場合でも、家畜がセーフティネットの役割を果たします。FAOは耕作から放牧への転換

を奨励し、放牧地の復旧を支援するほか、融資や獣医サービスを受けやすくすることで、こうした多様性を強化します。

現地の社会機構に対する支援: 長期的な危機は、政府や市場の崩壊を招くことが多く、地域住民は自力での対応を余儀なくされます。伝統的な支援ネットワークや地域社会は、人々にとって生き残るための一番の希望であることが多いのです。FAOは現地の社会機構が健全で柔軟な体制を維持できるよう配慮しながら活動します。たとえば、可能であれば地元の種子市場の復興を図ります。これは地元農民に生

産品を販売する場所を与え、農民が地域に合った穀物の種子を手に入れる機会を増やすことになります。

地域が持つ知識を生かす: 危機が起きている間は、少ない投入材ですむ穀物を栽培し、遠隔地の市場には依存しない傾向があります。たとえば、シエラレオネでは、トウモロコシに代わりキャッサバをはじめとするイモ類の生産が増えています。FAOでは、発展や将来の危機に対する抵抗力を高める重要な鍵として、こうした動きを奨励しています。

災害対応策の概要

突発的な危機への対応

FAOは、世界中で自然災害のために農業資産を失った世帯に対し、迅速な支援を行っています。生計を農業に依存している貧しい小規模農家は、自然災害による影響を特に受けやすく、さらに弱い立場に置かれることになります。FAOは、地域が食料生産を再開できるよう種子、植え付け資材、農機具の供与や研修を実施し、被災世帯が食料を生産し、援助に頼らなくすべく支援します。

スーダンの持続的な平和に向けての活動

FAOはハルツームとジュバにおける緊急支援・復興調整ユニットの活動を通じて、スーダンの平和構築を支援しています。具体的には、

難民、帰還民、国内避難民といった紛争で最も被害を受けた人々が地域社会に復帰できるよう支援しています。FAOの支援は、種子などの基本的な農業生産資材の供与、家畜衛生サービスの再開から、家畜疾病発生に対する地域社会の対応力強化、有効な土地制度を整備するための能力向上まで、多岐にわたります。

コンゴ民主共和国の紛争地域世帯に対する生活復興支援

FAOは、コンゴ民主共和国で最も被害を受けた住民に種子、農機具、小型反すう動物、漁具を供与して農業生産の開始・再開を支援するほか、市場の再開も後押ししています。このような支援によって、国内避難民、難民、帰還民、

元兵士らが自分たちと地域社会のニーズに合った食料を生産できるようにします。

フードチェーンの危機防止および対応

鳥インフルエンザ、キャッサバ・モザイク病、バッタの異常発生をはじめとする病害虫や疾病は、世界の食料供給にますます影響を及ぼすようになっています。FAOは現地の自治体と緊密に協力し、病害虫・疾病の発生を解明するために疫学的評価を行うほか、迅速な対応が取れるよう、獣医サービス機関や政府に対し緊急の技術援助、政策助言、研修を行い、調整を図ります。

